

ISSN 0388-4511

名古屋芸術大学

# 研究紀要

第 40 卷

名古屋芸術大学

2019

## 作品集

- 木彫による造形研究 2017 クロッキー&ドローイング  
..... 岩井 義尚 001  
Research of formative art by wood sculpture in 2017 Sketches and drawing Yoshinao Iwai
- 2018 年制作 陶磁作品群  
..... 加藤 真美 007  
Works,2018 Mami Kato
- 二層構造と植物現物鑄造のメダル  
..... 瀬田 哲司 013  
DOUBLE LAYERS AND VEGETABLE ELEMENT IN MY MEDAL Tetsuji Seta
- Ceramic as Contemporary Art -IAC 国際陶芸アカデミー国際会議講演より-  
..... 田中 哲也 021  
Ceramic as Contemporary Art  
-From The 48th IAC International Academy of Ceramics General Assembly and Congress- Tetsuya Tanaka
- 書道アートをめぐる(その6)  
..... 横山 豊蘭 027  
「Sho-Dou Art」～ Japanese calligraphy is Japanese・Traditional・Arts ～ Houran Yokoyama

# 木彫による造形研究 2017

## クロッキー&ドローイング

岩井 義尚 *Yoshinao Iwai*

(美術学部)

作品の形の素は、「自然のモノをデッサンしていると、その源は球体、それも機械的な球体ではなく、心地良い球体の単体又は複合体である」と考える。私の創作は、この考えを基に「視覚に訴えかけるのに重要である水平要素・垂直要素」そのものが創り出す空間」を使い構成している。



第40回 中部二元会展 2018.2.6～2.11

東桜会館ギャラリー(名古屋市)

テーマ；「動き」「流れ」「生」

立体作品における制作は、テーマからイメージし、形の根源を動物（人も含む）・植物・自然現象から創作要素を探り、構成を考慮し、素材（木）を彫ることにより形（Form）を創り出す手法で具現化した単体又は集合体で表現している。

平面作品は、ペンで描く多くのフリーハンドの線の重ねにより、人物を構成し、立体作品に影響するエスキースの要素を含むドローイングと人体クロッキー（各種描画素材）により、テーマを表現する研究をしている。

Form 1704 「遊No.11」

樟 (クス)  
台座; 樺 (ケヤキ)  
H56×W24×D20 (cm)

ペン画のドローイングを  
基に、素材の木材・・樟 (クス) 材へ、子供の  
絡み合う形で「躍動」  
「生」を表現した。



Form 1705

樟 (クス)  
台座; 樺 (ケヤキ)  
H40×W46×D35 (cm)  
台座別

原木 (学生が制作断念した材) を  
見てからアイデアスケッチを描  
き制作した Form 1705 は、樟 (ク  
ス) 材の一木作りの作品で、やわ  
らかい厚い布の一ヶ所を紐で縛っ  
て変化をつけて中身が溢れてくる  
瞬間を捉えて彫り出し、「動き」を  
表現した。  
(中部二元会研究展出品 名古屋  
市民ギャラリー)





1989年頃のアイディアスケッチ



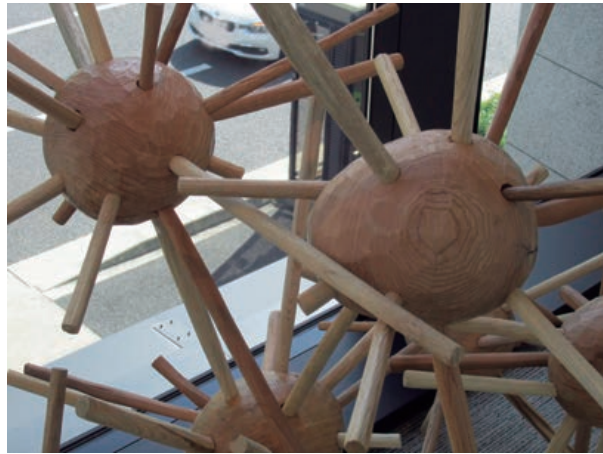
Form 1801 「遊No.12」  
 樟（クス）  
 台座；ブラックウォール  
 ナット  
 H75×W70×D12（cm）  
 台座別

左側は、制作最終段階の  
 角度を変えた4つの画像  
 である。

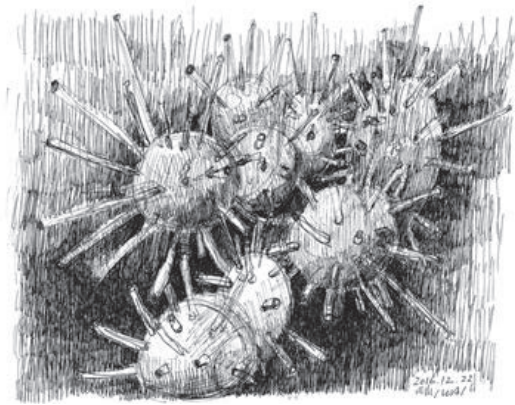


Form 1801「遊No.12」は、遊シリーズ12番目の樟（クス）材の一木作りの作品で、自然の木の形の中から三人の子供が戯れる「動き」を彫り出して人と人との「つながり」表現した。発端のアイディアは、1989年頃のアイディアスケッチからのものである。

（中部二元会展出品 名古屋市東桜会館）



Form 1701 変形  
ケヤキ+イチイ+チーク+タモ 他  
H138×W240×D70 (cm)



このアイディアスケッチは、「Form 1701」を制作する時に同時に描いたものの一つで、「Form 1701 変形」制作の基になっている。

この「Form 1701 変形」は、ちゅうしんアートギャラリーの24回目の作品展のために会場に合わせ、2016年度に発表した「Form 1701」の主たる部材を用いて、制作のコンセプトを維持した作品で、「動き」と「生」を視覚的に表現した。



中部二元展での「Form 1701」



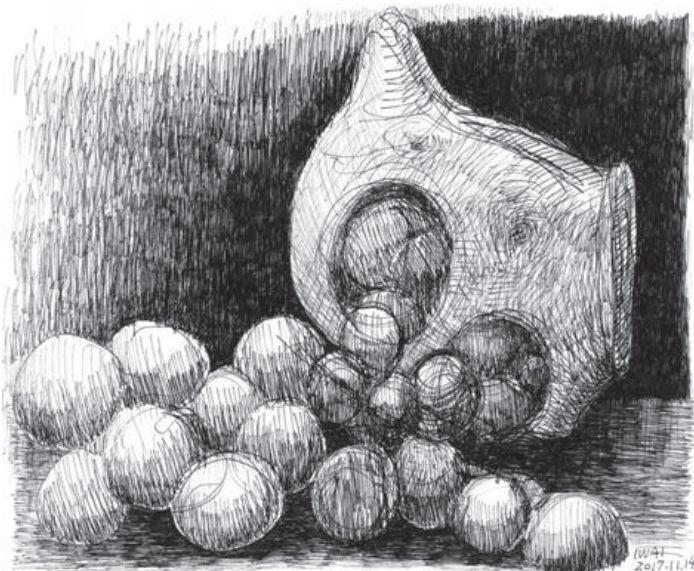
ちゅうしんアートギャラリーでの「Form 1701 変形」

## クロッキー (デッサン)

現在所属している中部二元会の研究会での成果で、和紙や上質紙に筆ペンを主に色はパステルで、「動き」「流れ」「量」を意識して描いている。同会の研究展出品及びクロッキー・デッサンの講師をしている「Art of 20 歩」の会の作品展に賛助出品している。

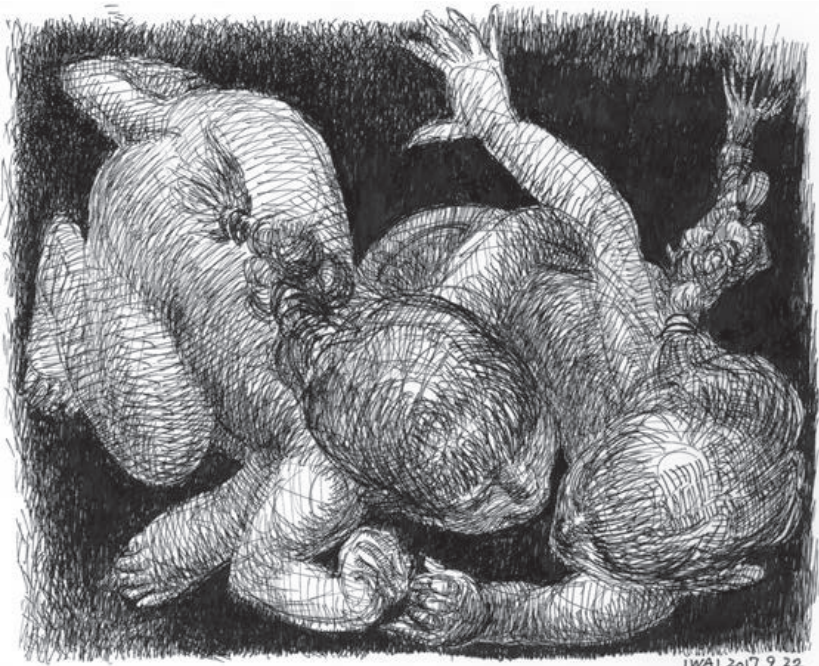


H35×W130 (cm) の和紙に筆ペン (カラーブラッシュ) とパステルを使用



## ドローイング

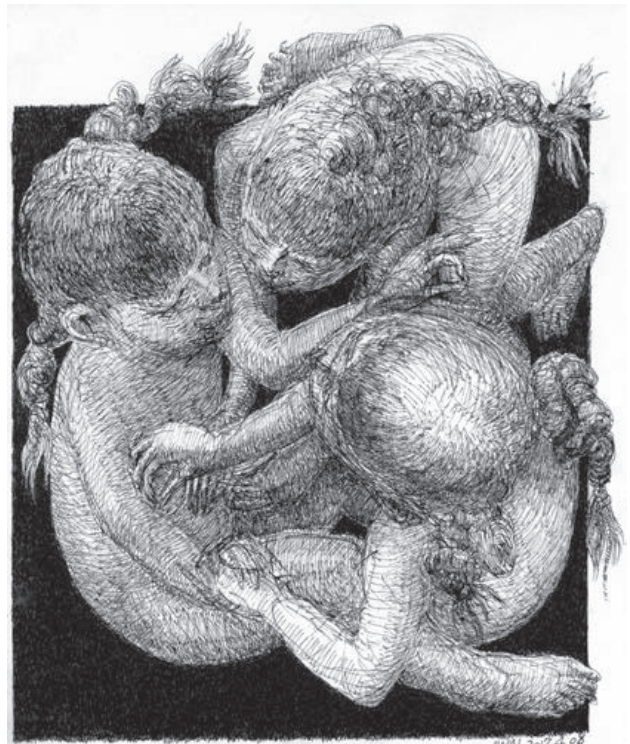
これらのペン画は、立体作品のために平面考察したもので、素材が優先し、アイデアを考察したドローイングで、「動」や「つながり」を特に意識し表現している。



### ドローイング

これらのペン画は、立体やレリーフ作品のためのアイデアを平面考察したもので、浮遊した子供の形を借りて、「流れ」や「躍動」を特に意識し表現している。

「Art of 20 歩」の会の作品展及び「ちゅうしんアートギャラリー」の作品展（中日信用金庫・名古屋支店）に出品している。





## 2018年制作 陶磁作品群

*Works, 2018*

加藤 真美 *Mami Kato*

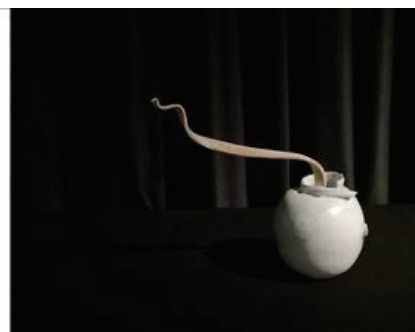
(芸術学部)



( Seeschloss Ort.Palast ,Gmunden Austria )

近年多様なシチュエーションでの作や発表の機会を与えられることが増えてきた。  
その中から3つ、  
東海市芸術劇場，ギャラリーCERA（常滑），Seeschloss Ort 城（オーストリア）  
これらの展示を作品画像を中心に振りかえってみたい。

東海市芸術劇場  
Tokai City Art Theater  
2018/3/17~3/31



作っていると、それぞれが人のように性格を持つように感じる。  
彼らは黙して佇みながら ゆくえのしれぬ吐息を  
ひっそりと吐き出している。



I feel as if  
pots have character like human  
Sitting quietly they sigh,  
flow to nowhere.  
磁土 灰釉  
還元冷却焼成  
Porcelain, Ash glazes  
Reduction 1280°C

フォルム  
Form



ダイアローグ  
Dialogue



惑星  
Planets



昨年、2017年度東海市芸術劇場専属レジデンスアーティストとして選定を受けることになった。そこで1年を通して劇場内工房で市民に陶芸に親しみ理解を深めてもらうためのワークショップと公開制作を行った。年度末2018年3月には同館内ギャラリーで個展を行いレジデンス活動の締め括りとした。これらはその作品群である。

In 2017, I was selected as Annual residence artist of Tokai City Art Theater. Though the year, I did demos and workshops, to make ceramics more familiar to citizens. These are the works made during my residency, and exhibited at Tokai Art Theater Gallery in March 2018.



h. 24.5 cm



Gallery CERA  
—かたちしりとり—  
2018/5/25~6/4



バイフェロ配合土  
土灰単味吹付  
還元冷却焼成 1280°C  
Stone ware Ash sprayed  
Reduction gass kiln

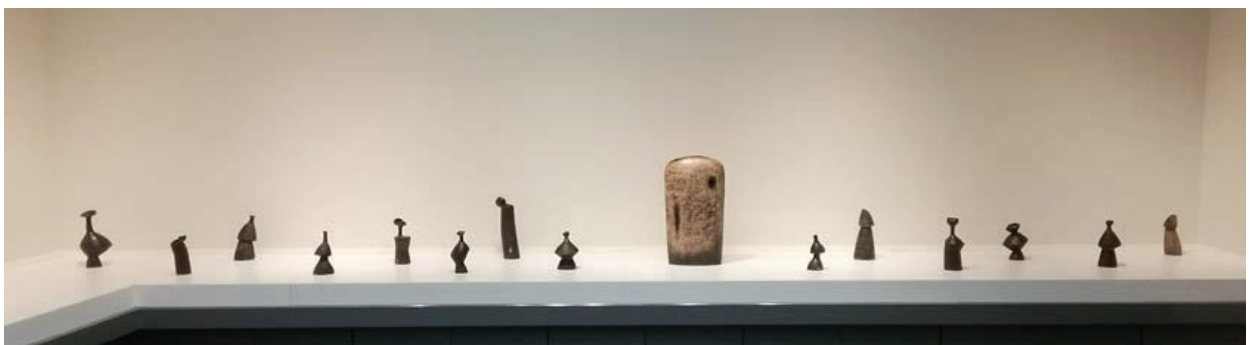


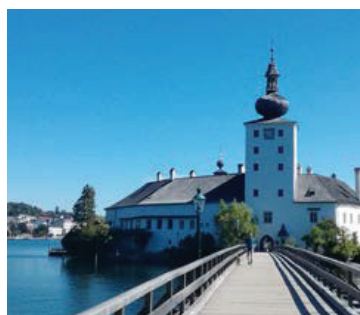
この5,6年磁土による板作り技法で制作してきたが、技法が造形に限界を作っているように感じたので紐作りで制作することにした。土も磁土でなく、耐火度が若干劣る鉄分の多い黒いバイフェロ配合土を選んだ。

今回の造形の着想は、二つのカップが伏せ重ねられている様子が一つの形としてみえたところから始まった。紐作りで徐々に積んでいく過程で、その先に続く様々な形のバリエーションが浮かんで見え次の作品の形へとつながっていったので展覧会の題を「一かたちしりとり」とした。板作りに勝る即興的・瞬発的自由度があって楽しみながら制作出来た。作品も磁器のものに比べ、能動的な感じがするように思う。

I have been working with porcelain by slab building for these 5,6 years. Somehow I felt a kind of limit in forming with this technique, so I decided to make by coiling, with iron rich stone ware.

One day, I saw two cups inverted one on the top of the others. This silhouette was the beginning of imagination. When coiling, I could imagine various forms which continues from present shape. It was such fun to work following spontaneous images, making without prepared plans.





TOPFERMARKT Gmunden  
オーストリア  
2018/8/24~28

ポスターに私のポットが  
My teapot, on poster



8月、オーストリア焼き物の街 Gmunden で市が主催する陶器市に参加をする機会を得た。風光明媚な湖畔で毎夏催されている。今年は第30回記念ということで日本が招待国、マーケット販売のほか湖の中に立つ Seeschloss Ort 城で日本人作家6名で展示を行った。

私は黒土の塔のような壺と「月下群」と名付けた20の磁器碗を展示、両作あわせて見ても物語が感じられるよう配置した。城の中、刻々と変化する窓からの外光で見る自作は格別であった。

末尾ながらきめ細やかにお世話して下さいました Vladimir 夫妻、市の Eva 女史に心より感謝したい。  
On 2018, “TOPFERMARKT Gmunden” celebrated 30 year anniversary and Japan was invited as the guest country. Six Japanese artists exhibited at Seeschloss Ort castle, besides participating the market.

I placed 20 porcelain bowls “Moon Light”, with black-clay vessel, which looks like tower. It was impressive to see how my works look in historical architecture, in natural light.

**DOUBLE LAYERS AND VEGETABLE ELEMENT IN MY MEDAL**

二層構造と植物現物鑄造のメダル

瀬田哲司 *Tetsuji Seta*

## DOUBLE LAYERS AND VEGETABLE ELEMENT IN MY MEDAL

### 二層構造と植物現物鑄造のメダル

瀬田哲司 Tetsuji Seta

私の制作するメダルの特徴の一つとして「二層構造」があります。

これは他に例のない独特のものです。

「表と裏」があるのはメダルの大きな特徴です。

私の「二層構造」は「表と裏」をより発展させたものです。

通常はメダルの表と裏をひっくり返しながら両方の面を鑑賞しますが、

「二層構造」のメダルでは二つの面を同時に鑑賞できます。

二つの面を同時に観ることによってそれぞれが表現する時空の差異、物事の関連性などが強調されます。

There is "Double layers" as one of the features of my medal.

This is the unique one which has no other examples.

It's the big feature of medal that there are "Obverse and Reverse".

My "Double layers" made them developed from "Obverse and Reverse".

Two faces can be appreciated at the same time by a medal of "Double layers"

however usually both faces are appreciated while turning a obverse of a medal and the reverse over.

The spatiotemporal difference each expresses by seeing two faces at the same time and the relation of the matter are emphasized.

**Different time    Different place**                      時間と場所の違い

**Different situation**                                      状況の違い

**Different viewpoint**                                      視点の違い



## Different time    Different place    時間と場所の違い

2011年3月の終わり、私は英国美術メダル協会の定例会議に出席するためにロンドンへ行った。それは日本で大きな地震があったその14日後のことである。その地震のニュースはロンドンのテレビでも毎日のように報じられていた。しかし日本で報じられるそれとロンドンで報じられるそれは何かが違うように感じた。ウィリアムとケイトの結婚式は4月29日に執り行なわれた。

At the end of March 2011, I had come to London to attend BAMS Conference.

That was 14 days later of the severe earthquake which has happened in Japan.

The news of the earthquake was flowing every day in the television of London.

But, I felt that the big news is seen in Japan and that it's seen in London like different news.

Kate and William's wedding was held on April 29.

### The upper layer

*The noon of April 29th*

*William and Kate road in a carriage procession from Westminster Abbey to Buckingham Palace*

*(I was in Japan, I was watching the carriage procession on TV.)*



*copper alloy 83x86x30mm 2011*

*collection of Museum Beelden aan Zee, The Netherlands*

### The lower layer

*The evening of April 5th*

*I was walking on the road connected with the Buckingham Palace*

*(I was in U.K. William and Kate were not there.)*

## Different situation 状況の違い ( 良い知らせと悪い知らせ )

オランダの Teylers Museum からメールが来たのは 2011 年 5 月 30 日 21 時 40 分 21 秒 (日本時間) だった。それは私が” 第 1 回 Jaap van der Veen / Teylers Museum Prize for the Contemporary Art Medal” の候補者として選ばれたという知らせだった。その賞は 5 年に 1 度 1 人しか選ばれない。

私はその 5 人の候補者の一人として選ばれたのである。

翌朝、私は庭の金魚が一匹死んでいるのを発見した、良い知らせと悪い知らせは時に同時にくるものである。

私が Teylers Museum Prize を受賞するのは 5 年後の 2017 年のことである。

I have received a e-mail from Teylers Museum in the Netherlands at 21:40:21, May 30, 2011(JST)

The mail was the news that I was chosen as a candidate for the Teylers Museum Prize.

Only 1 person is chosen as the prize once per 5 years, I was chosen as one person of that 5 candidates.

I found that a goldfish in my garden died in the next morning.

Good news and bad news come together sometimes.

I won Teylers Museum Prize in 5 years later.

### The upper layer

Rainy morning, May 31, 2011 I found the goldfish in the garden dead



Copper alloy 83x95x38mm 2011

Collection of Teylers museum, The Netherl

### The lower layer

Japan standard time 21:40:21, May 30, 2011 I received e-mail from Teylers Museum

## Different viewpoint

## 視点の違い

喰べるものと喰べられるもの。

10月のある日、私の庭ではあるドラマが繰り広げられていた。

私の庭は私の思いどおりにならない世界の象徴である。

それは自然の摂理によって動いている。

Somebody to eat and somebody to be eaten.

On a day in October, the affair which is my garden had happened.

My garden is a symbol of the world it won't be as my concern.

It's moving by natural providence.

### The small ring

かなづき **October 2014** *A green caterpillar eats the leaf*



### The large ring

ヤブガラシ ***Cayratia japonica*** *A mantis is eating a green caterpillar*



Siver950 125×93×34mm 2014 Private collection

## Vegetable elements 植物は時空を繋ぐ

私のメダルが表現する時空は私の記憶が素になる。

そこに現れる植物はその場所に確かに私が居た証なのだ。

My memory will be origin in the time and space my medal expresses.

The plant which appears in my medal is the proof that I was in its location certainly there.



2012 Greeting medal (*Lampranthus spectabilis*)

Copper alloy 25×40×8mm

Collection of Museum Beelden aan Zee, The Netherlands

2010年 私は小さなメダルをグラスゴーへ持って行った。

2017年7月8日 私はハーグでそのメダルを美術館に寄贈した。

2017年7月30日 私は日本でその出来事をメダルにした。

I took a small medal to Glasgow in 2010.

I contributed the medal to an art museum in Den Haag on July 8, 2017.

I made the affair a medal on July 30, 2017 in Japan.

### The upper layer

July 8, 2017 I'm in The Museum Beelden aan Zee Den Haag The Netherlands



Silver 950 117×109×33mm 2017

Private collection

### The lower layer

July 30, 2017 I'm at home in Japan

## The work shop (vegetable elements) 植物の実物鑄造

メダルは普通は複数作られるが、私は一つのメダルを一つだけ造る。

それには物理的な理由もある。

私のメダルについている植物は私が私の庭や道端に生えている植物を採集したものである。

それを蠟原型の一部として使用し石膏で固め窯で焼き上げる。

植物は蠟と一緒に燃焼して空間となり熔けた金属が流し込まれるのを待つ。

植物を型取ったり造形するのではない、植物そのものが金属に置き換わるのである。

それは私がその時その場所にいた証としてメダルの一部となる。

植物そのものが金属に置き換わるのであるから複製はできない、一つだけである。



Many the same medals are usually made but I make each one medal.

That has a physical reason.

The plants on my medal are collected from my garden or roadside.

I use that as the part of the wax mold, bind with gypsum and bake it up by a kiln.

Plants will burn with wax and be space. And that waits the metal which melted to be poured.

I don't take a mold and I don't model plant. Plant is that itself is exchanged for metal.

That will be the part of the medal as the proof that I was in its location then.

Because itself is exchanged for metal, Plant can't reprint. It's only one.



# Ceramic as Contemporary Art

## —IAC 国際陶芸アカデミー—国際会議講演より—

田中 哲也 *Tetsuya Tanaka*  
(美術学部)

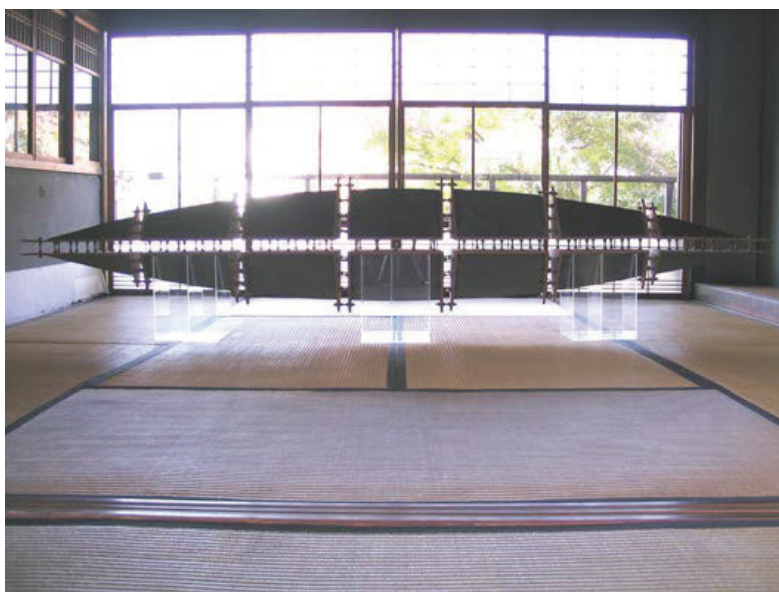
去る 2018 年 9 月 30 日 (日) から 10 月 4 日 (木) まで、台湾新北市 New Taipei City Hall 及び新北市立鶯歌陶磁博物館にて、IAC International Academy of Ceramics 国際陶芸アカデミーの第 48 回国際会議が開催された。

New Orientalia 東方を国際会議のテーマに、初日の台湾国立歴史博物館館長廖新田氏、モデレーター Jacques Kaufmann 氏による基調講演からはじまり、2 日目、林康夫氏、楊元太氏、モデレーター劉鎮洲氏による対談、滋賀県立陶芸の森美術館学芸員三浦弘子氏、奈良美智氏による特別講演に続き、3 日目、4 日目には、約 20 名の IAC 会員による講演が行われた。私も「Ceramic as Contemporary Art」と題し 10 月 3 日 (水) に講演を行った。本著では、その講演内容を写真とともに記す。



IAC 国際陶芸アカデミー会員 田中哲也

My name is Tetsuya Tanaka. I come from SHIGARAKI, Japan. Today, I will give a presentation on my work which is ceramic works as contemporary art.



My first series are QOO series. This name from Chinese or Japanese character 漢字空 . This means sky or empty. For over ten years I am making ceramic works that were combined with metal. Though these works look like genuine metallic products, the main material is ceramics and only a few parts are real metal. This is 空 (QOO)-KINMIRAI Nostalgia. This work is over 3 Meter. I exhibited it at BIWAKO biennale that international contemporary art biennale. I exhibited in old Japanese house. Recently in Japan, exhibiting contemporary art pieces in traditional space become trend. I feel contemporary art pieces are suitable to Japanese traditional space. Japanese traditional architecture is based on ZEN spirit. There is no decoration. Only there is comfortable space made of natural things such as light, wind, and so on. ZEN spirit is similar to concept of minimal art that fashioned at 20 century in U.S.A. and Europe. Maybe it is reason I feel so.



This is one of Thinking on the Wall series. Thinking on the Wall series combine ceramic and metal thing also. This part is motor head of grinder. Sometimes I use scrap things.



These are tea wares. I am making functional art pieces also. Many Japanese ceramic artists are making fine art piece and functional art pieces both. There is almost no border between arts and crafts in Japanese ceramic arts. Japanese craft is called "KOUGEI". KOUGEI is slightly different from Western craft. In the West, art is considered to be higher than craft. In Japan, KOUGEI and arts is the same, sometimes the KOUGEI is higher than art. Please imagine sometimes one tea bowl is traded at 30 thousands euro. These tea bowls are not antique. Japanese contemporary ceramic art is growing from this KOUGEI.



This is a flower vase. Japanese post war modern ceramic artists developed ceramic sculpture from functional objects like flower vase. In our generation, there are ceramic sculptures already. Sometimes I put sculptural element back into functional objects.





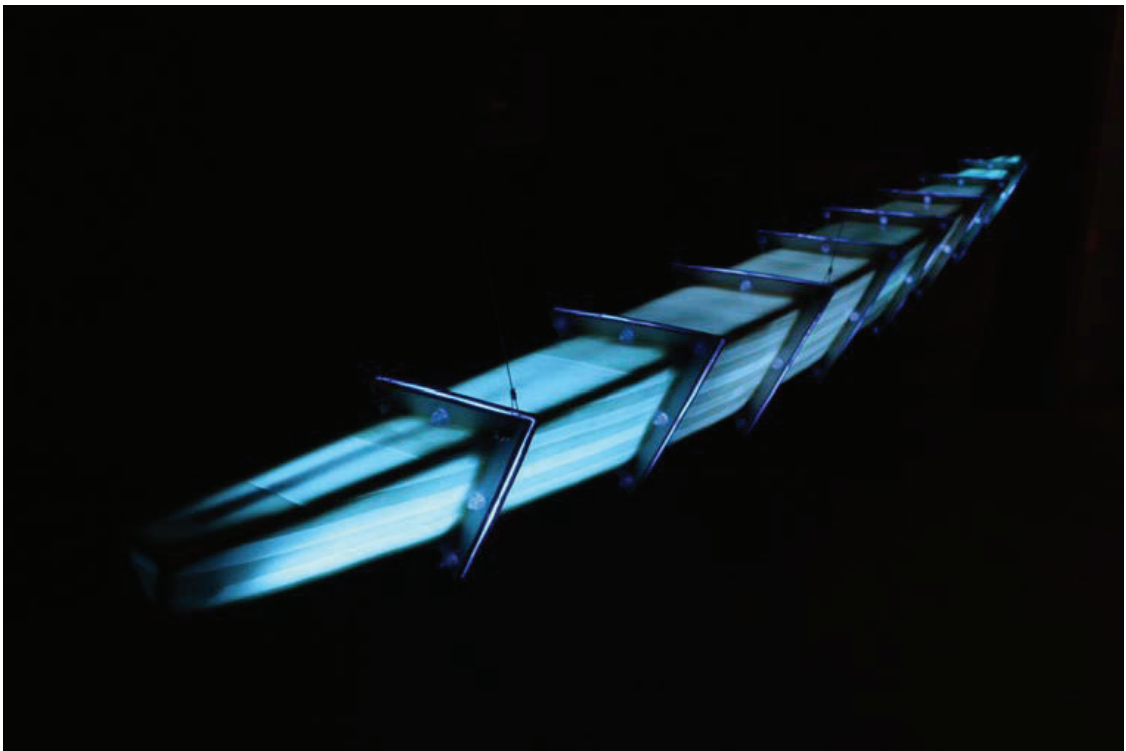
Next are recent works. I am trying approach to contemporary art from ceramic art. We as a potter, make vessels. I am making vessels for invisible or things without shapes and volume. For example vessel for sounds, vessel for time, vessel for light or rays. This is HIBIKI vessel for sounds. If you stand in front of this work, you can hear outside sounds from works inside.



This is KAGAYAKI. KAGAYAKI is vessel of lights or rays. I made KAGAYAKI body by translucent clay. I illuminated it with LED light from inside.



This is installation work. I exhibited it at Kobe biennale. Kobe is a big port town. There are so many containers for shipping. I exhibited these in 12 meter container.



This is KAGAYAKI - Vessel of light. I exhibited this work at Gyeonggi International Ceramic Biennale 2015 in Korea.



This is wall work of KAGAYAKI.



This works image from KATANA sword. My work is a Contemporary art and also KOUGEI craft. I have tried to create artworks by the new ceramic technique or idea developed from the basic and traditional way of KOUGEI. I am challenging to create my works with the aim of the fusion of KOUGEI art and contemporary art. I hope to be an artist who will expand a new style or area with possibility of my pursuit for this fusion and will greatly contribute to the ceramic culture.

## 書道アートをめぐって（その6）

横山 豊蘭 *Houran Yokoyama*  
(美術学部)

2018年3月9日、タイ、バンコクにあるスリナカリン大学（Srinakharinwirot University）で、書道ワークショップ授業をおこなった。本校、書道アートでも行っている授業だが、大書はタイの学生達にも強い関心を持って迎えられ、書く喜びは万国共通のものであると感じた。

6月16日、清流の国ぎふ芸術祭「ぎふ美術展」関連プログラムとして、岐阜県美術館にて横山豊蘭書道パフォーマンス「書の身体」を開催させて頂き、書道パフォーマンスと共に大書と映像によるインスタレーションをおこなった。今回の大書パフォーマンスでは、特別改良した大筆作品を使用しておこなわれた。映像は高8m×幅24mのオーガンジースクリーンに映写され、作品は1枚4M×6Mのサイズで2枚の布に書き、吹き抜けの会場に吊り上げ展示された。

7月5日～8日まで、フランス・パリで行われた「JAPAN EXPO 2018 in Paris」に、私が主幹を務める豊蘭会書道・美術研究所として招待された。Japan Expoは、毎回20万人以上の来場者がある大型日本文化イベントであるらしい。従来いわゆる「普通」の書道家や現代美術作家であれば辞退していたかもしれない。しかし今回、名古屋芸大書道アート部初代部長、池上夢与（洋画2コース卒業、現在MOA美術館勤務）と、現在の部長、小浦知也（デザイン領域3年在籍）と相談しフランスに訪れ、WABISABIパビリオンでの作品展示と書道パフォーマンスを敢行した。今年、フランスでは日仏友好160年を記念して、日本政府とフランス両国による連携イベント「ジャポニスム2018：響きあう魂」が開催されている。パリ日本文化会館では7月14日（土）～9月15日（土）まで「井上有一 1916-1985—書の解放—」がおこなわれるなど、書への関心が高まっている。今回、Japan Expo 2018は24万人の入場者があったという。会場には書道だけでも25ブースが立ち並び、フランスでの書道人気伺える。「ART」は見当たらなかった。しかし今後、書道はその強烈なエネルギーでもって、世界的な「アート」になっていくだろう。従来常識的な優劣ではない。それは海外における書道アートの現実であり、そこには書道アートの、ある種のユートピアがあった。

8月19日には清流の国ぎふ芸術祭 アート体験プログラム「アトラボぎふ」として、ぎふ清流文化プラザ長良川ホールにて「大きな筆で書いてみよう！ 横山豊蘭大書ワークショップ『書画会』」をおこなった。当初の30名の定員に対し、家族づれなど、子供から大人まで幅広い年齢層から定員の倍近い応募があり、急遽55名で行われた。

9月3日～10月5日、Langkawi Balai Seni Negara (National Art Gallery) マレーシア国立美術館で開催された「AICAD ART EXHIBITION 2018」での作品展示、アーティスト交流会での書道デモンストレーションをおこなった。

愛知県の名古屋市生涯学習センターで開催された名古屋市大学連携講座、「書道を伝える仕事」全5回の講座を開講した。親子での受講によって書道体験をしてもらいながら、世代を超えて、書を伝える事の大切さをテーマとした。10月26日～31日、名古屋芸術大学アート&デザインセンターギャラリーBEにて書道アート受講生によるグループ展「書道アート展5～エクストリーム～」を企画・キュレーションし、9名の作家による10作品を展示した。

●書道ワークショップ / 大書体験授業（書画会）

スリナカリン大学（Srinakharinwirot University）タイ、バンコク

2018年3月9日

●清流の国ぎふ芸術祭「ぎふ美術展」横山豊蘭書道パフォーマンス「書の身体」

会場：岐阜県美術館多目的ホール

2018年6月16日（土）10：00～12：00

入場者数170名

主催：岐阜県、公益財団法人岐阜県教育文化財団、平成30年度文化庁文化創造拠点形成事業

制作：豊蘭会書道・美術研究所、鈴木崇司、増田栄、鈴木理夫。スクリーン制作：鈴木珠江。  
映像プロジェクション：水野崇弘。サポートスタッフ：池上夢与、藤原葵、竹内創也、伊藤真、  
小浦知也、渡邊愛奈。

●清流の国ぎふ芸術祭アート体験プログラムアートラボぎふ「大きな筆で書いてみよう！」

横山豊蘭大書ワークショップ「書画会」

会場：ぎふ清流文化プラザ長良川ホール

2018年8月19日（日）13：00～15：30

参加人数55名

主催：岐阜県、公益財団法人岐阜県教育文化財団、平成30年度文化庁文化創造拠点形成事業

●名古屋市大学連携講座「書道を伝える仕事」

会場：名古屋市中生涯学習センター／愛知県

土曜日10：30～12：00、5月12日、26日。7月28日。8月11日、25日（全5回）

●AICAD ART EXHIBITION 2018

会場：Langkawi Balai Seni Negara (National Art Gallery) マレーシア国立美術館

作品展示2018年9月3日～10月5日

●「書道アート展5～エクストリーム～」(グループ展)

会場：名古屋芸術大学アート&デザインセンターギャラリーBE、

2018年10月26日～31日12：15～18：00

トークイベント16：30～17：30

企画サポート 大崎正裕、企画・デザイン 横山豊蘭、主催：名古屋芸術大学、書道・美術 研究所。

参加作家・作品タイトル

池上夢与『境界にて』、海野悠子『無題』、小笠原盛久『花菖蒲』、

小浦知也『極』、田畑玲『彩嵐』、

高橋凛『cutting image』(写真作品)『lost map』(平面作品)、

藤原葵『Omen』、本間恵里加『skin』、

横山豊蘭『Sho-dou Art. Beyond the painting ( the other side of the abstract painting )』

「書道ワークショップ／大書体験授業（書画会）」スリナカリン大学（Srinakharinwirot University）タイ、バンコク



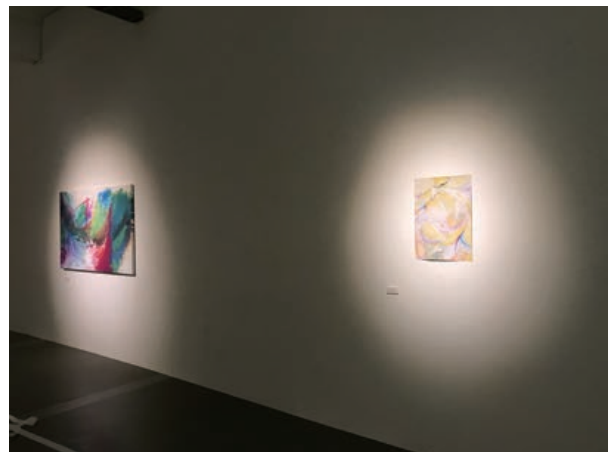
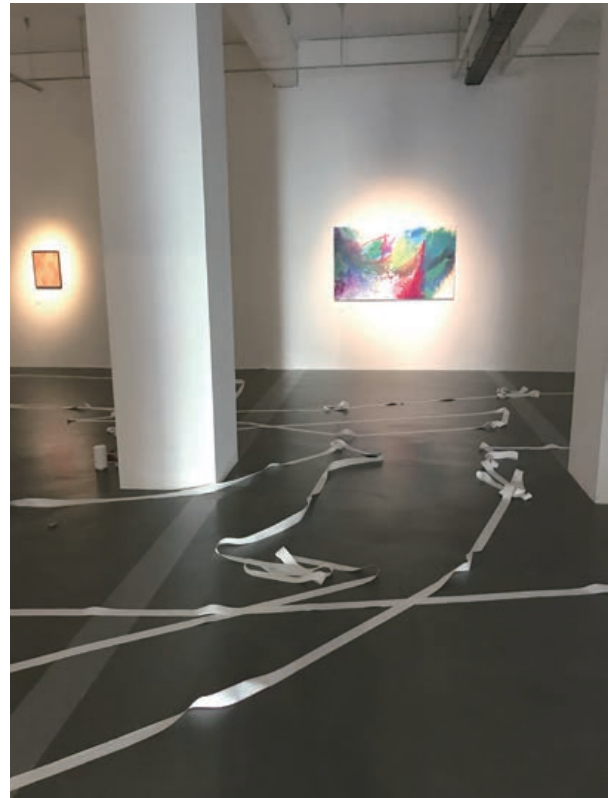
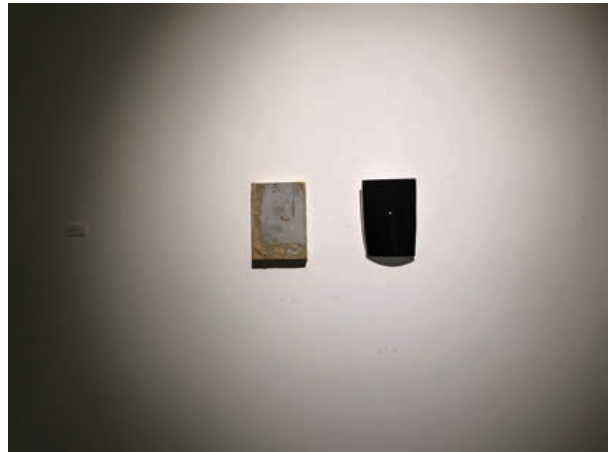
清流の国ぎふ芸術祭「ぎふ美術展」横山豊蘭書道パフォーマンス「書の身体」（岐阜県美術館）



清流の国ぎふ芸術祭「アート体験プログラム」アトラボぎふ「大きな筆で書いてみよう！」  
横山豊蘭大書ワークショップ「書画会」

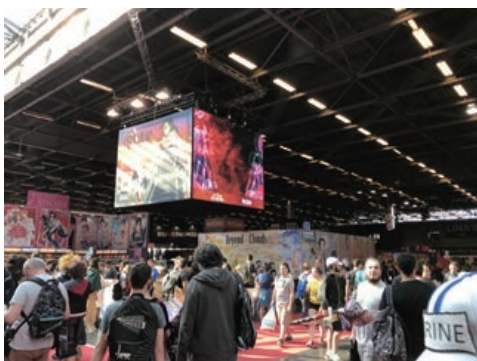


「書道アート展 5 ～エクストリーム～」





JAPAN EXPO 2018 in Paris



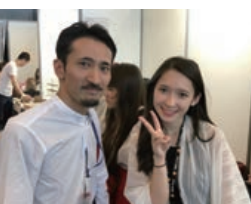
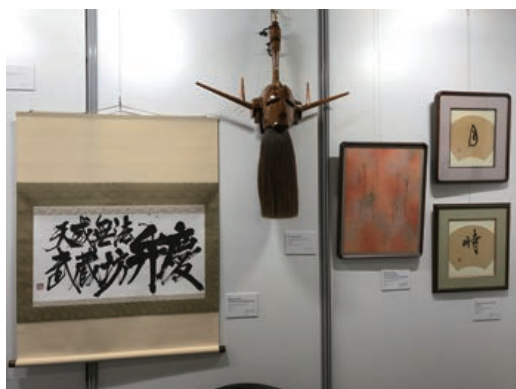
横山豊蘭



池上夢与



小浦知也



作品をご購入頂いた皆様

現地通訳の Shuwa Kobayashiさん

Sophia ALEXANDREさん

Hadrien HONORATさん

## 研究紀要 執筆者一覧

### (論文集)

安部 孝	人間発達学部 教授
小川 真理子	人間発達学部 非常勤講師
鎌倉 博	人間発達学部 准教授
上田 浩司	芸術学部 音楽領域 教授
木全 清博	人間発達学部 教授
酒井 宏明	人間発達学部 教授
新村 洋史	美術学部 名誉教授
東條 文治	人間発達学部 准教授
安井 謙介	豊橋市自然史博物館 主任学芸員
加藤 真浩	卒業生・彫刻家
茶谷 薫	芸術学部 芸術教養領域 准教授
高井 芳江	人間発達学部 非常勤講師
村田 尚子	野並保育園
野原 由利子	人間発達学部 名誉教授
豊田 和子	人間発達学部 教授
清原 みさ子	人間発達研究所 客員研究員
寺部 直子	人間発達研究所 客員研究員
榊原 菜々枝	名古屋文化学園保育専門学校
中川 直毅	人間発達学部 教授
中嶋 理香	人間発達学部 教授
橋本 裕明	芸術学部 デザイン領域 教授
早川 知江	芸術学部 芸術教養領域 准教授
舟橋 三十子	芸術学部 音楽領域 教授
星野 英五	人間発達学部 教授
南元 子	人間発達学部 准教授
王 昊凡	芸術学部 芸術教養領域 助手

### (作品集)

岩井 義尚	芸術学部 美術領域 教授
加藤 真美	芸術学部 美術領域 非常勤講師
瀬田 哲司	芸術学部 デザイン領域 准教授
田中 哲也	芸術学部 美術領域 非常勤講師
横山 豊蘭	芸術学部 美術領域 非常勤講師

---

## 名古屋芸術大学研究紀要 第40巻

2019年3月8日印刷

2019年3月15日発行

発行者 名古屋芸術大学  
〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地

印刷所 有限会社もくもく印刷

**BULLETIN  
OF  
NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS**

**Vol. 40**

**NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS**

**March 2019**